

2018年度 茨城キリスト教学園中学校自己評価表

目指す学校像	本校は建学の理念であるキリスト教精神に基づいて、豊かな人間性を育むことを目指しています。 本校の教育目標は、「心豊かで実力のある自立した国際人の育成」にある。 (1) 自己の確立・・・神を敬い、自分を大切に、良い目的を持つ人生を志し、勉強に励む生徒を育てる。 (2) 人類愛・社会性の育成・・・自分と同じように家族・友だちを大切に、さらに国際人として世界の人々を愛せる生徒を育てる。 (3) 個性の伸長と進路実現・・・自分の能力・個性を伸ばし、進路実現のために意欲的に取り組める生徒を育てる。	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標
三つの重点項目を中心に生徒・保護者・教職員の共通理解の下で種々の教育活動を実践し、一定の成果を年々積み重ねてきたが、なお一層、一人ひとりの生徒を大事にしたきめ細かな計画・実施・点検が必要である。	キリスト教教育に基づく豊かな人間教育	① 礼拝、宗教行事等の活動を通して、豊かな人間性と情操の陶冶を図る。 ② 宗教行事に積極的に取り組む姿勢を養うとともに、礼拝を通して敬虔な態度を身につけさせる。 ③ 豊かな情操と福祉の心を育てるための方策を具体的に推進する。
	国際教育と英語教育の強化	① 国際教育を積極的に展開し、国際理解を深めると共に、その基盤でもある英語教育の強化と実践に努める。 ② 生徒の発達段階や実態に即した指導計画を作成し、教育活動全体を通して、国際教育を進める。 ③ 留学や研修などの国際交流教育を具体的に進め、異文化体験を通して豊かな国際性を養う。 ④ 米国人教師による英会話教育の充実と強化に努める。
	学力の向上と進路指導の充実	① 基礎的、基本的な事項を確実に身につけさせると共に、自主的学習の態度を養い、創造的な力を高め、進路実現のための実力を養う。 ② 各教科で指導内容、指導計画の見直しを行い、一層の応用力の発展を図る。 ③ 学習指導法の工夫、改善を図り、個人差に応じた指導を進める。

判定基準 5：大変よくできた 4：よくできた 3：ふつう 2：やや不十分 1：不十分

評価項目	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度への課題
第一学年	1. 基本的な生活習慣を身につけさせる。 2. 他の人への思いやりと感謝の気持ちを持たせる。 3. 意欲を持って学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 4. 読書に親しみ、継続して読書する習慣をつける。	①元気に挨拶し相手や場面に応じて適切な言葉遣いができるようにさせる。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用する態度を養う。さまざまな面での自己管理ができるようにさせる。	4	4	・挨拶と礼儀を徹底させる。 ・周囲の人のことを考えて行動できるよう視野を広げさせる。 ・読書時間を確保する。 ・学習意欲を向上させるように働きかける。
		②ひとり一人の個性を理解し、価値観の違いを認め合うようにさせる。常に他者への思いやりと感謝の心を持ち、それを態度や言葉で表現できるようにさせる。相手を受け入れる広い心を養わせる。	5		
		③予習・授業・復習のサイクルを身につけ、授業に集中して取り組む態度を育む。毎日一定の家庭学習を行う習慣をつけさせる。	4		
		④教科書や授業だけでは得られない様々な経験や知識を、読書を通して自分のものにさせる。新聞やニュースなど、世の中のさまざまな情報に目を向け、問題意識を持たせる。	4		
第二学年	1. 基本的な生活習慣を身につけさせる。整理整頓など自己管理ができるように	①元気に、爽やかに、挨拶ができるようにする。自分から誰に対しても笑顔を忘れずに接すると同時に、規律ある態度を養う。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用するけじめのある態度を養う。	4	4	・確実な基礎学力の定着と向上を目指す。

	<p>する。</p> <p>2. お互いを尊重し合う人間関係を築かせる。</p> <p>3. 意欲を持って学習に取り組む姿勢を身につけさせる。</p>	<p>②机の中、ロッカー、ハンガー掛け等教室の内外の整理整頓を心掛け、教室の美化に努める。日々の清掃活動を通して奉仕の心や、社会貢献の素地を作る。</p>	4		<p>・提出期限を守れるように、手帳の活用や確認する習慣をつけさせる。</p> <p>・自ら挨拶することや率先してやれることを増やせるように指導する。</p>
		<p>③互いの個性を理解し、価値観の違いを認め合える態度を育む。そのために、感謝や思いやりの気持ちを忘れずに行動する。家族の人や、隣人、仲間等誰に対しても、「ありがとう。」「ごめんなさい。」「お願いします。」と素直に言える心を育み、相手を受け入れる広い心を養っていく。</p>	4		
		<p>④授業に真剣に臨み、良く聴き、活発に発言し、けじめのある授業態度を育む。予習や復習等日々の家庭学習を習慣づける。提出物の期限を守り、完全に終了して提出できるように習慣づける。学年の取り組みとして朝学（英数国）を実施し、日々努力することの大切さと意欲を育む。</p>	4		
第三学年	<p>1. 基本的な生活習慣を身につけさせ、責任をもって自ら考え、行動できるようにする。</p> <p>2. お互いを尊重し合い、思いやりのある気持ちを常に持って行動する人間関係を築かせる。</p> <p>3. 意欲をもと手学習や行事、部活動に取り組む姿勢を身に着けさせる。</p>	<p>①礼拝を通して真理を追求し、隣人愛について学び、それを生活に反映させる。お互いの個性を理解し、価値観の違いを認め合える態度を育む。常に感謝や思いやりの気持ちを忘ずに行動する態度を身につけさせ、心豊かな人間性を養う。</p>	5	4	<p>・IC手帳を活用し予定等の確認には務められたが、そこから計画的な学習に繋がられるよう、意識や目標を高く持たせたい。</p> <p>爽やかな挨拶ができ、仲間への思いやりや協力が随所に見られた学年である。更に豊かな人間性を日々磨けるようにしたい。</p>
		<p>②社会に出てから通用するような礼儀、心のこもった爽やかな挨拶、正しい言葉遣いを身につけさせる。身嗜みをはじめとして生徒心得を守り、最高学年として模範となるような行動や態度がとれるようにさせる。また日々の清掃や作業、奉仕活動を通して、社会貢献の精神を養う。</p>	4		
		<p>③学ぶことの目的や将来の目標について考えさせ、自ら学ぶ姿勢を養う。授業に真摯に意欲的に臨む態度を更に養う。中学校学習課程の基礎の定着と確認を怠ることなく、計画学習や目標設定をさせ、高校進学に向けて、学習意欲の向上に繋げていく。</p>	4		
		<p>④知識を定着させるために、効果的な課題及び提出期限の厳守により学習の習慣化につなげる。また、ゼミや講習内容を充実させ、習熟度に応じた学力の向上を図る。さらに、国際社会に対応できる力をつけさせるために、英語力の向上に重点をおく。</p>	4		
		<p>⑤行事に全員で協力して参加させ、得手不得手に関係なく一生懸命に取り組ませる。国内研修旅行を通して、平和と日本の歴史や伝統文化について考えさせる。また、部活動や信愛会活動を通して、個々の能力を伸ばすとともに社会性を身につけさせる。さらに、最高学年として組織を統括させ、リーダーシップをとって牽引させる。</p>	5		
宗教	<p>1. 今年度のテーマ「生命を尊ぶ」ことを学ぶことを目指す。</p> <p>2. 自己の存在を肯定的に受けとめ、神に生かされていることを受けとめ、自分らしく生きることを励ます。</p>	<p>①放送礼拝の充実：語られるメッセージが生徒への励ましとなるように図る。</p>	4	4	<p>英語による礼拝を始められたことが喜ばしい。次年度は英語の讃美歌も歌いたい。</p>
		<p>②集合礼拝の充実：整然と意義ある礼拝が行われるように図る。</p>	5		
		<p>③キリスト教週間の充実：今年度のテーマ「隣人愛」について学ぶ。</p>	4		
		<p>④クリスマス礼拝の充実：本校の意義ある学校行事としてキリスト教的意義を学ぶ。全校生徒が役割を分担し積極的に参加できるように図る。</p>	5		

教務	1. 学校における教育活動全般を統括するために、各学年・分掌等と連絡を密に取り、迅速な調整を行う。 2. 学校全般の教育活動が潤滑に進められるように、教務関連業務の効率化と省力化を進める	①教育活動全般が円滑に進むように、各学年・分掌と連絡を密に取り、必要に応じて迅速な調整を行う。	5	5	①電子データの更なる整理と、山積していく紙媒体資料の整理と保管を進める。 ②教務的規則の明文化と内容の整備
		②情報システム部と連携して出席管理・成績処理・帳簿への記入などの電子化を進め、教務関連業務の効率化と省力化を図る。	5		
		③年間行事計画を基にして、月毎の詳細な計画を立案する。	5		
		④時間割調整は勿論、授業時間数の確保に努め、十分な学習活動を実施する。	5		
		⑤保健美化部と連携して教育活動に関連する環境整備に努めると共に、教員が潤滑に教育に励める庶務内容をより充実させる。	5		
進路指導	各学習段階に応じた進路指導の計画を立て、実施する。	① キャリア教育の一環として「職業講話」を分科会形式で計画し実施する。	5	5	職業講話の更なる充実。
		② 「2年 進路ガイダンス」(一貫高2生から学ぼう)を計画し、実施する。	5		
		③ 各学年とも「三者面談」を計画し、実施する。	5		
		④ 「1・2年 進路ガイダンス」(一貫卒業生から学ぼう)を計画し、実施する。	5		
学習指導	各学習段階に応じた学習指導の計画を立て、実施し、学習習慣の確立と学力の定着を図る。	①「家庭学習の記録」を全学年で実施し、学習習慣の確立を図る。シートは毎月貼り重ね、生徒面接・保護者面談の資料としても活用できるようにする。	5	5	校外試験への取り組みの啓蒙活動。
		②学力向上を図るため、基礎力養成ゼミと実力養成(ハイレベル)ゼミを年間4期にわたって計画し、実施する。	5		
		③中学校課程学力確認試験を実施する。また、学力不振者に特別補習を行う。	5		
		④実力試験を計画し、実施する。	5		
		⑤ 学力推移調査を計画し、実施する。	5		
生徒指導	1. ひとりひとりの自主性・自立性を育て、中学校生活の充実と人格の育成に努める。 2. 本校教育理念の実現にむけて払われる全教職員の取り組みに協力し、その効果的達成のため、側面から援助する。 3. 指導内容の共通理解をし、共通行動をとれるようにする。	①挨拶・正しい言葉遣い・時間厳守など、礼儀と基本的な生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。	5	4	・いじめ対策 ・インターネット対策 ・挨拶運動
		②生徒心得に基づいた中学生らしい端正な容姿を守らせる。	5		
		③学年・学級担任と連携することにより、生徒の問題行動等に対し、事前・事後にわたって効果的に対処する。	4		
		④いじめ防止に努めるとともに、いじめの早期発見、早期対応により早期解決を図る。	4		
		⑤インターネットや携帯電話を使用した事故・事件に対する防止および解決に努める。	4		
特別活動	1. 行事、委員会活動の充実を図る。 2. 生徒が自主的に活動で	①行事や諸活動において、学級や委員会で目標・計画をたて、それに従って活動できる体制を整える。	5	5	信愛会会長がよく統率力を発揮してくれた。次年度役員

	きる環境作りをする。 3. 信愛会役員がより積極的に活動できるように指導、支援する。	②信愛会役員会を定期的に設定し、自主的な活動ができるような体制を確立する。	5		にも、良い部分を継承させたい。
国際教育	生徒が進路を考えていくに当たり、自国の文化や海外についての理解を深め、視野を広げていけるよう指導する。	①短期留学生の受け入れについて i. 国際教育部の担当者、及びその他の校内協力者による特別授業を行う。 ii. 受け入れに際しての説明会を実施し、ホームステイ制度の充実を図る。	5	5	
		②短期留学生の派遣について i. 派遣生徒を精選し、留学制度を一層充実させる。 ii. 派遣生への事前指導と準備を十分に行う。 iii. 十分な指導と準備をするために早目に引率者を決定する。 iv. 引率の手引を作り、引率者の負担を減らすよう努める。	5		
教育相談	1. 教育相談の立場から、明るく安心して登校できる学校・学年・クラスの雰囲気づくりのサポートを組織的に行い、良好な人間関係を築けるよう働きかける。 2. 悩みや問題を持つ生徒が、学校生活に適應できるよう、組織的に援助する。 3. 生徒の成長を援助できるように、教育相談に関する知識・技術の習得に努める。	① 生徒が安心して学校生活をスタートできるよう、新入生に対し、教育相談オリエンテーションで本校の相談体制を身近に感じられるようにし、構成的グループエンカウンターで仲間づくりのアシストをする。また、その後のフォローアップ活動を行う。	5	4	各種検査結果をより有効に活用できるようにする。
		② 中学校ワイド相談（エゴグラム）を実施し、生徒に自己理解を深める機会を提供する。	5		
		③ 個々人の特性を知る、悩みの早期発見、日常の生徒観察の一助として、知能検査、心理検査、Q-U アンケートを実施する。また、結果到着後に、要配慮者の確認を行う。	4		
		④ 教育相談部だよりを発行し、安心して生活できる場を作り上げる方法や、メンタルヘルスケア方法を紹介することで、生徒自らの心のケア能力の向上を図る。	5		
		⑤ スクールカウンセラー、養護教諭との連携を密にして情報の共有化を図り、問題を早期に発見し、適切に対応する。また、状況に応じて、特別支援会議や関係教職員対応会議を実施する。	5		
		⑥ 教育相談に関する研修に参加し、動向や対応について学ぶ。	4		
保健美化	1. 美化：校内の環境整備、校舎内外の清掃・美化を徹底して行う。 2. 保健：心身ともに、健康な生徒を育成する。教室の換気・湿度調節等、健康に生活するための環境を整える。	① 美化委員会の清掃見回りの活動を継続するとともに、清掃用具の管理・整備や校内の環境整備に努める。	4	5	委員会活動の充実を目指すとともに、大掃除のポイントを伝えるなどし、校内の美化に努める。
		② 衛生消耗品や清掃用備品などの点検補充を行う。	5		
		③ 通常清掃、大掃除時の清掃方法の指導を行い共通理解を図るとともに、美化活動の効率化を図る。	4		
		④ 身体計測や諸検診などを効率的に実施する。	5		
		⑤ 校内の環境衛生について、教室の換気や湿度の管理などを、保健委員をはじめ生徒全体で円滑に行えるよう指導する。	5		
図書館	1. 生徒や教職員が足繁く訪れる、魅力ある図書館 2. 利用しやすい学習・情報センター	① 蔵書構成の適正化を図り、生徒の学習・読書活動に資する蔵書の充実に努める。	5	5	教科担任に積極的な図書館授業利用を促し、図書館が今後いっそう生徒の
		② 諸行事・諸展示企画の充実に努め、生徒の読書に対する興味と意欲を喚起する。	5		
		③ 図書館からの諸案内により図書館情報の普及に努め、図書館への関心を高める。	4		
		④ ブックリストの活用等により教科・分掌と協力して図書館利用を促す。	5		

	3. 各教科・分掌との連携による充実した図書館活動	⑤ 図書委員会活動の活性化を通して生徒の図書館利用を推進する。	5		学習進化の中核となることをめざしていく。
渉外	1. 肩羊会会員の活動の場としての体制を整備する。 2. 肩羊会の活動を通して、生徒の学校生活の充実を図る。 3. 保護者の研修・情報交換の場としての充実を図る。 4. 諸活動の効率化をはかり、より楽しく活動できるように工夫する。	① 本部役員を中心として諸活動を充実させる。	5	5	諸活動の効率化をより一層進め、より楽しく活動できるよう工夫する。
		② 学年委員会は、学年肩羊会活動の企画運営にあたる。学園祭では全体を統括する。	5		
		③ 総務委員会は、肩羊会総会の際に受付や進行・卒業記念品の手配を行う。	5		
		④ 研修委員会は、教育講演会の企画立案を行う。	5		
		⑤ 環境整備委員会は、校舎周辺の花壇・プランターの整備を行う。	5		
		⑥ 厚生委員会は、学園祭のバザーに向けて手芸品の作成を行う。また、各家庭にバザー用品の提供を働きかける。	5		
		⑦ 校外指導委員会は、定期的に登下校の指導を行う。	5		
		⑧ 広報委員会は、年3回の広報誌の作成を行う。	5		
		⑨ 学園祭ではすべての保護者の協力を得て活動する。	5		
情報システム	1. HPの充実。 2. 授業でのICT活用の推進。	① HPでの学校行事等の更新の迅速化	4	4	技術(情報分野)の授業との連携。機器の適切な管理。
		② HP上で提供する情報の拡充	4		
		③ パワーポイントやインターネットの授業での活用の啓蒙活動	3		
		④ 情報教室・英会話教室など生徒用PCの適切な管理	4		
入試広報	本校の教育内容を受験生とその保護者、小学校や塾関係者に正確に伝わる広報活動を行い、男女問わず多数の志願者を得て、入学者が増えるように努める。	① PR効果のある学校案内パンフレット・ポスター・ちらしを作成し、活動域内のすべての受験生に届けられるように努力する。	5	5	・急速な少子化が進行する中で、志願者・入学者を確保するためには、学校への評価・信頼が安定する必要がある。そのためにも、継続して周囲との信頼関係構築に努力する。 ・入試広報業務の効率化
		② 校外で行われる入試説明会や進学フェアに参加する。	5		
		③ 学校見学会・入試説明会等や学園祭の内容を充実させ、多くの児童とその保護者に参加してもらえるようにする。	4		
		④ 関連部署と協力し、中高入試広報部が一体となり、学外広報に努める。	5		
		⑤ 生徒募集に関わることについて、教職員全員が共通認識を持てるように学内広報に努める。	4		
国語	1. 自分の思考や感情を、「ことば」を使って効果的に「話す」「書く」能力を養う。 2. 相手が伝えようとしていることを、その意図を理解しながら正確に「聞	① 音読、正確な読解、自分の意見のまとめと発表、詩歌等の創作、作文(作品に対する意見文や感想文)等の観点から日常の授業内容を工夫し、充実させる。	4	4	生徒が主体的に活動する機会を増やす。
		② 「読書記録」を年間2回、夏休みには読書感想文と課題作文に取り組みせる。	4		
		③ 様々な名文に触れ、音読を通してそのリズムや響きに親しませる。	4		

	く」「読む」能力を養う。 3. 漢字を正しく理解し的確に使えるようにするとともに、語感を磨き語彙を豊かにさせる。	④字力向上のため、漢字テストを実施する。また、その成果を見るため、「漢字能力検定試験」を計画し、実施する。	5		
		⑤国語辞典・漢和辞典・古語辞典を授業の中で積極的に活用し、語彙を増やすよう努める。	5		
		⑥「国語弁論大会」を計画し、実施する。	5		
社 会	1. 地理的分野では、深く社会を立体的に捉えることを目標とし、資料活用や調査研究のための基礎的な力を養う。 2. 歴史的分野では、広い世界史の枠組みと流れの中で、日本の歴史を捉える力を養う。 3. 公民的分野では、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、公正な判断力を養い、良識ある市民として必要な能力と態度を育てる。	①生徒の実情を踏まえつつ一貫校の特長を生かした授業を展開する。特に中3生には、授業内外において、プレテストおよび中学校課程学力確認試験対策を行う。	5	4	アクティヴ＝ラーニング、ICT教育、新指導要領への対応。
		②互いに教授方法や教材を公開・共有し、より良い授業のあり方を研究する。	3		
		③小テストを行い、基礎基本の定着を徹底する。	5		
		④長期休業を活用しての課題学習の促進を図る。	5		
数 学	前倒し授業を通し、1・2年次では計算力、論理的思考を養い、3年次で数学的思考力、記述力を身につけさせる。	①<1年次>数学において必要な基本的な計算力を確実に身につけさせる。 <2年次>習熟度別クラスを実施し、計算力に加え、論理的思考能力を身につけさせる。 <3年次>習熟度別クラスを実施し、計算力、論理的思考能力を向上させる。 後期より、高校数学の内容を履修し、数学的思考能力、記述力を身につけさせる。	5	5	電子黒板、タブレットの活用。  既習内容の振り返りのための試験。
		②種々のテストについては、基準点に満たないものは、放課後に追試を実施する。追試は強制力を持ち、これに応じない場合は、担任注意、家庭連絡等を行う。	4		
		③授業やテストに合わせ課題を提出させる。未提出者は放課後残して終わらせる。	5		
		④成績不振者には、必要に応じて指名講習を行う。成績上位者対象の希望者講習を行う。	4		
理 科	1. 第2学年次までは基礎学力の定着と向上に、第3学年次からは専門知識の習得に重点を置く。 2. 科学的な時事問題や発展的内容を授業に取り入れ、幅広い科学的思考を養う。 3. 観察・実験を通して理解を深めながら実験技能を習得すると同時に、自然を	①基礎学力の定着を図るために、資料集の積極的な活用と小テストの適宜実施に努め、適切な課題学習も行わせる。	4	5	電子黒板の積極的な活用。 新学習指導要領への対応。
		②演示実験や視覚に訴える教材などを工夫し、これを授業に有効活用する。また、それらを教員間で共有することで、相互研修とする。	5		
		③6年間の理科教育を見越し、履修内容に応じて高校の学習範囲を盛り込んだ授業展開を工夫する。	4		

	探求する能力と態度を育成する。	④教員間の情報交換を定期的に行い、適切な指導に努める。	5		
音楽	1. 我が国や外国の音楽を学ぶことによって音楽を愛好する心情を育むと共に、豊かな感性を育む。 2. 讃美歌やコーラスコンクールの練習を通して、音感・リズム感など音楽活動の基礎的な能力を育み、皆で美しいハーモニーを生み出そうとする協力性を養う。	①歌唱や器楽の練習を通して、音楽表現の基本となる音感やリズム感など音楽の基礎的な能力と音楽性を育むよう努める。	4	4	・各行事での演奏の質を維持すると共に、生徒が楽しく意欲的に取り組める教材の充実に努める。
		②伝統の讃美歌を混声三部合唱で歌えるよう練習し、礼拝や入学式、卒業式、コーラスコンクール、クリスマス礼拝などで美しいハーモニーを響かせられるよう努める。	5		
		③質の高い演奏の収集に努め、鑑賞の授業の充実に努める。	5		
美術	1. 学園祭に作品を出品することで、作品制作におけるプロセスである発想・制作・展示・鑑賞の流れを理解させる。 2. 絵の具・カッターなど、使用する道具の基本的な扱い方を習得させる。	①授業ごとの到達目標を明確にし制作を進めさせる。	4	4	・机間巡視を徹底し、それぞれの能力に応じた課題と指導を充実させる。
		②机間巡視で絵の具や道具の使い方などを細かく指導し理解させる。	4		
		③学園祭での美術作品展示を充実させる。	5		
技術家庭	生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。	技術分野（1・2年） ①コンピューター活用の基礎的な知識と技術を身に付け、情報と生活とのかかわりや情報モラルを学び、情報手段を主体的に活用する能力を育成する。	4	4	技術分野 情報モラルについて最新の情報を確認し授業に反映させる。  家庭分野 生活に興味を持ち、問題意識を持って取り組めるような教材で、生活的自立を促したい。
		②エネルギー変換を利用したものづくりの実習から環境問題にも目をむけさせる。	4		
		③身の回りのものづくりの技術を知り、正しい道具の使い方を身につけさせる。	4		
		家庭分野（全学年） ①衣食住について、その基礎的な知識と技術を習得することを通して、自分の生活に対する関心を深め、進んで工夫することで生活の自立を図る。	4		
		②調理実習・被服実習などの活動を通して、体験的に学習することにより学習した知識や技術が自らの生活に生かされるようにする。また、グループ学習である調理実習や調理実験を増やし、協力して取り組む姿勢を身に付けさせる。	4		
		③家庭生活における消費の重要性に気付かせ、消費者としての自覚をもち、物資・サービスの適切な選択・購入ができるようにさせる。	4		
		④家族や家庭の基本的な機能を理解し、家庭生活は地域の人に支えられていることに気づかせ、社会の一員としての自覚を持たせる。	4		
保健体育	1. 運動における競争の経験を通して、公正な態度や、規則を守り、協力して責任を果たすなどの態	①集団行動を取り入れ、メリハリをつけた行動や姿勢がとれるようにする。	4	4	タブレットの活用。
		②見学者・欠席者数の減少のため、状態把握に努める。	4		
		③体育授業の際の服装を徹底する。	5		
		④基礎体力強化のための運動を積極的に取り入れる。	5		

	度を育てる。 2. 健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。 3. 集団での基本のあり方を理解し、他者を思いやり行動ができるようにする。 4. 安全に集団行動がとれるようにする。	⑤事故防止に努め、安全に授業に取り組める環境作りをする。 ⑥生徒達の自主性を育てる。 ⑦自己の能力に適した課題をもって運動を行い、その技能を高めて競技し、また記録を高めることができるようにする。	5 5 4		
英語	1. 書いて覚える学習をしっかり身につけさせる。 2. 音読などの声を出す活動をできるだけ取り入れる。 3. 辞書を活用させる。 4. 様々な文化に対する理解と知識を深める。	①英語活動や英作文など、生徒の主体的な活動を多く取り入れる。	4	4	4技能を身に付けさせるために、引き続きアクティブラーニングを適宜取り入れていく。
		②校外試験対策として、応用問題などを取り入れる。	4		
		③English Workshop や留学生との交流活動など、英語を通して様々な文化を学ぶ機会を取り入れる。	5		
		④以下の目標を達成できるような、英単語力を身につけさせる。 2年次 SAクラス 3級合格・英検準2級挑戦 Aクラス4級合格・英検3級挑戦 3年次 SAクラス 準2級合格 英検2級挑戦 Aクラス3級合格・英検準2級挑戦	4		
英会話	ネイティブ教師とのふれあいによる英語を使える体験を通して、英語学習に対する意欲を高める。	①教科書の有効活用を指導する。	4	4	The new textbook is slow paced and does not provide many grade opportunities.
		②1クラスを2つに分け、それぞれのグループを米国人教員が担当することで、少人数教育を実現し、LISTENING と SPEAKING の練習・活動を出来るだけ多く取り入れる。	4		
聖書	創造主なる神の存在を知ることにより命の尊さを学び、自らを肯定的に受けとめる。与えられた賜物を生かし、隣人愛という概念により世に貢献することを学ぶ。	①多様な価値観が存在する現代社会において、聖書が示す絶対的価値があることを指し示す。	5	4	カリキュラムを見直し、3年をめどに確立する。
		②キリスト教倫理からその生き方を現代社会に適応させ、生徒自身の生と結びつけて考えることを教え育む。	4		
		③夏休み明けまでの時期に教会を訪問することによって、建学の精神を学ばせる。	4		
総合	1. 自ら課題を見つけ、自から学び、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育てる。 2. 自らを深く見つめ、真理を探究し謙虚に自己の生き方を考えることが出来るようにする。	①教科学習や諸行事・部活動など、すべての教育活動を通して培って行く。	5	5	総合学習の時間を通して生徒達の生きる力をさらに養っていくことを目指していく。
		②「探求の時間」を通して、主体的に学習し適応して行く能力を育てる。	5		
		③「礼拝」を通して、人類や世界を視野においた価値観を養う。	5		